



学校だより

11月号

令和4年10月31日
横浜市立能見台南小学校

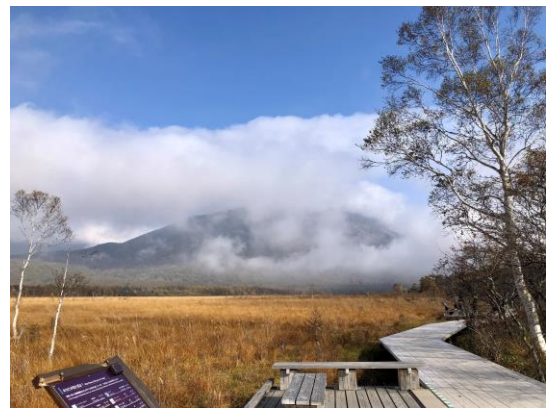


← 学校ホームページ
QRコード

対応力を育てる

校長 榊原 一紀

10月16日から17日にかけて6年生の修学旅行が行われました。先月の4年生の体験学習と同じく感染対策を行いながらの活動でしたので、制限される部分が多くありました。食事は黙食、マスクをしながらのキャンプファイヤーやハイキングなどの制限がある中でも、楽しく過ごしている姿が多く見られました。また、宿泊した奥日光高原ホテルの方から「生徒さんの多くが、目を見て話してくれました。ただの挨拶だけでなく、『食事がおいしかったです。』や『家族で来たいです。』など心温まる言葉もありました。このようなしっかりした生徒さんはあまり見ません。」と言葉をいただきました。たくさんの小学生を見ている方からの言葉なので大変うれしく思いました。



ハイキング中に見えた戦場ヶ原からの男体山

なかよし遠足ではブロックごとに行動しましたが、下の学年の子には普段担任の先生の前では見せないような甘える姿が見られました。大変そうな6年生の代わりに声をかけようと思いましたが、やさしく話したり、疲れた気持ちを違う方に向くようにと楽しい話をしたりするなど、学校まで自力で帰れるように頑張っている姿を見て、声をかけることはしませんでした。修学旅行のハイキングでは、遅れてしまう友達になかよし遠足とは違う声掛けをしている場面を見ました。相手の気持ちを考えることは同じであっても、声掛けの仕方や手助けの方法は違います。場面に応じて柔軟に対応する力を、関わりながら学んでいると感じました。

あらゆる事に対して柔軟に対応できる力を「対応力」と言うそうです。例に挙げたような相手の年齢や気持ちを考えて柔軟に対応していくことを、教室での授業で育てていくことは難しいです。いろいろな場面で、人と実際に関わりながらうまくいったり、失敗したりしながら学んでいきます。休み時間や放課後の遊びの中でも学ぶ機会はたくさんあります。「対応力」を育てるには、経験が重要です。大変そうだからと、すぐに大人が手を出して解決してしまうことで子どもの学ぶ機会を奪ってしまうことがあるかもしれません。「あなたは、どうしたいの」「私だったらこうするよ」など、自分で解決できるように促していくことが大切だと改めて感じた子どもたちの行事での姿でした。